

---

# 嘘吐き娘。

並木沙知子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

嘔吐き娘。

### 【Zコード】

「N4785」

### 【作者名】

並木沙知子

### 【あらすじ】

「雨の中」 続編の話。

雨の中歩いて主人公・志織は倒れた。

その後目を覚ました病室には先生がいて…

息が苦しい。

雨音が遠くに響いていた。

さあさあと。

その上、聞き慣れない電子音が響いて、それはとても耳障りだ。  
そんなものをつけなくとももう自分は大丈夫な気がするのに。

遠い意識の中で私は聞いた。

「この子まで死ぬなんて、嫌よ……」

ああ柿崎先生の声だ。

「何があつたの？あの保健室で……」

由美子は死んだんだ。

そんなことは解つてゐる。

だつて私が刺したもの。

由美子の身体が奥深くにまで刺さつた異物の存在に悲鳴を上げたから。

音の無い悲鳴、それは刺した私しかわからないけれど。

私が殺した。

世界から追放した。

もう戻つてこない。

”私の親友”

それはもう遠い闇の中で。

これから先、お供え物だつてしてあげる。

殺してしまつたのは私なのだ。それが許してもらえることならね。由美子の大好きな粒餡のおはぎ何個でも4つまでなら1ヶ月に一回くらいは供えてあげる。

でも、どうしてもできないことがあつた。

たつたひとつ。

そう、それはおはぎを買い続けるよりも簡単なこと。  
…私の自首。

「私がやりました」

たつた一言の言葉である程度の解放は得られるのに、どうしても言えなかつた。

自首さえすれば定められた年数生きていられれば…”罪を償えれば”また普通に生きていけるけれど。

人に訴えるくらいなら、初めから衝動に駆られなかつた。  
後から謝罪するのなら、私は殺さなかつた。

私は永遠に嘘をつく。

昔から今まで、そしてこれからもずっと片時も休むことなく。  
：私は、眞実を失うのだ。

由美子を殺したその瞬間と、雨の景色がぐるぐると。  
私の頭を浸食していく。

どうしてかはわからないけれど、それが悲しくて。  
失えない罪の意識に歡喜した。

覚悟は決めた、もつ戻らないし戻れない。

一瞬の安らぎすら疑わなければならぬ世界に私は踏み込むのだ。  
滅多には入ることのない、昔の記憶の渦巻く世界。  
そこに私はためらいながら入り、そしてまた逃げるこすらもう叶  
わない世界。

「知らない男の人に入ってきたんです…」

目に似た、かすかに違う声が耳に響いて。  
私は微かに戸惑いながら作り上げた嘘を答えていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4785j/>

---

嘘吐き娘。

2011年1月15日21時28分発行